

vol.5

選書者：見寺貞子

(神戸芸術工科大学 大学院芸術工学研究科 教授 博士(芸術工学))

●『ユニバーサルファッションーおしゃれは心と身体のビタミン剤ー』

著者：見寺貞子・笹崎綾野

現在、コロナ感染を経験した私たちは、サスティナビリティ、エシカル、ダイバーシティー、地球温暖化の抑制など、社会が抱える課題に対し様々な解決法を模索し取り組みつつある。「ユニバーサルファッション」とは、急激に進展する高齢社会への新たな解決法として、年齢や性別、障害の有無に関わらず誰もがファッションを通じて快適な衣生活環境の中で人間らしく生きていく方法論である。本書は、特に衣服選択の幅が乏しい高齢者や障害者に焦点を当て、「ユニバーサルファッション」の現状と可能性について、産官学民の具体的な取り組み事例を紹介し、今後のファッション市場の方向性と展望を示唆するものである。

●『Advanced Style ーニューヨークで見つけた上級者のおしゃれスナップ』

著者：アリ・セス・コーエン 翻訳：岡野 ひろか

著者のアリ・セス・コーエン氏は、大好きな祖母を見て、『「old」という言葉をネガティブに考えたことはない。年をとっているということは、誰よりも経験豊かであり、賢く、アドバンスしている。つまり人生の上級者なのだから。』。そして彼は、それを証明するために、ニューヨークのおしゃれな高齢女性たちを写真集「Advanced Style」にまとめた。本書に出てくる高齢女性たちは、社会が描く「年をとった女性」というイメージではない。彼女たちは皆、若々しい心とスピリットを持っており、個々のスタイルと想像力で自己表現している。年齢という固定概念を越えた人生の上級者たちの生き方は今後の高齢社会を示唆するものとなるだろう。

●『ファッションインジャパン 1945 - 2020 ー流行と社会』

編集：島根県立石見美術館、国立新美術館

ファッションとは、一定の期間、一定の地域において現れた特徴的な装いを意味する。本著では、1945年から2020年までを扱っている。敗戦後の混乱から復興、高度経済成長、バブル崩壊と日本社会が大きな変化に直面した時期における人々の暮らしと装いの変転を時系列的に捉え掲載している。特にファッションが消費経済と密接な関係にあった点に注目し、社会動向と一体となったものとしてファッションを捉えている。社会の変化とともに移りゆく価値観や美意識、つまり人間がどのような衣服とそれを着る身体を理想としたのかを辿るファッションを文化として捉えた貴重な図書である。

●『色のユニバーサルデザインー誰も見分けやすく美しい色の選び方ー』

著者：日本色彩研究所

色は誰もが選択することができ、私たちの様々な感情を呼び起こしてくれる。しかしその色使いが適切でないと傷害に繋がり、良い色彩設計とは言えない。例えば危険を表す赤ランプと安全を示す青ランプ。多くの人は一目で区別できるが、区別がつきにくい色彩特性の人には認識できない。黒に青ラインの配色も高齢者には区別しにくい。本書では、多様な色彩感覚を持つ人の存在にも対応できる必要な知識と方法が示されている。多様性が尊重される時代であるからこそ、カラーユニバーサルデザインは誰も見分けやすく美しい色の選び方を示しその必要性を説いている。

●『裁ち方・縫い方質問集』

編集：文化出版局

洋服を自ら作ることは楽しいことである。しかし、制作中にちょっとした疑問にぶつかるとなかなか前に進めなくなる。そのような時に本著は大変役に立つ。もとより疑問は人により千差万別だが、今まで一番多かった質問を集め、必要と思われる事項も集めて編集されている。ここではポイントを捉えた解説になっているが、いくつかの関連事項を組み合わせる必要がある。

本書は、どのような方にも理解できるよう、ごく初歩的なものからやや専門的なものまで掲載されている。いつの時代にも通じるような基本的な考え方や基礎的知識、合理的な新しいテクニックがまとめられており、洋裁の参考書としては優れた図書である。